A 44 高齢者の積極的な生活態度について－新座市高齢者生活実態調査より

十文字学園女短大 ○宮城道子 古松弥生 木寺博子 柳許子 横田京
藤井敏信 佐藤元 狩野敏也 波多野和彦

目的 新座市における高齢者の生活およびその意識を総合的に把握する試みとして行なわれた1989年7月のアンケート結果から、高齢者の積極的な生活態度を左右するものについて分析した結果を報告する。

方法 調査対象地区：新座市内19地区（町丁目単位）
調査対象者：在宅の男女高齢者（65才以上）
有効回収数1156名、有効回収率89.2%。
調査方法：質問紙による留置調査

結果 日常生活における積極的な生活態度として11項目をあげ、これらについて自分自身があてはまると思うかどうかをたずねたところ、「ニュースや時事問題」「新しい知識」などには積極的な回答が得られたが、「流行をとりいれた服」「自分なりのおしゃれ」といった項目には消極的であった。また一般的には、加齢にともなって積極性が失われていくが、「ニュースや時事問題」「若い人との会話」などは加齢による変化が小さい。性別においても、男性の積極性が高い項目、女性の積極性が高い項目、性差がほとんどみられない項目に分けられた。高齢者の生活を単純に活力が失われていくものとみるのではなく、家族類型や経済面・精神面・健康面の3つの自立意識などとの関連のなかから、構造的に把握し、積極性をより発展させる方向を求めることが重要と思われる。